

# 進捗報告書（資金分配団体）

事業名:	新型コロナ禍における緊急被災者支援事業
資金分配団体:	公益財団法人佐賀未来創造基金
実行団体数:	14団体
実施時期:	2021年2月～2022年3月
事業対象地域:	九州全域
事業対象者:	災害支援団体

Version 1.0

日付: 2021年12月xx日

## I. 事業概要

<b>事業概要</b>
<p>"九州における近年の自然災害の増加しており、元来は全国のボランティアにより復旧復興がなされていたが、コロナ禍において被災した県市町村外のボランティア受付拒否となり復旧復興が遅延。</p> <p>当該課題解決のため、経済界や災害以外のボランティア団体等と連携し、不足する「人物金」を供給し復旧復興を進める支援をし、同時にコロナ禍やその他感染症を考慮した九州独自のガイドラインを整備し、行政・社協・経済界と合意協定を締結し、次年度以降の災害対応に備える（同時に事業年度内に発生するであろう災害の緊急支援も実施）</p> <p>活動を通じて、遅延していた被災地の復旧復興活動が実施され、またガイドライン整備合意協定により、将来の復旧復興遅延リスクを軽減している状態を目指す。"</p>

## II. 進捗報告の概要

<b>総括</b>
<p>本事業における活動として、3つ設定していた。①直近で罹災した地区へ新型コロナウィルス対策を考慮した支援②助成先同士の意見交換により構築する新たなガイドラインを活用した九州圏内での人員補完③福岡を中心にした九州の経済界との連携による人・物・金の確保協力</p> <p>それぞれの現状進捗と懸念・課題は、下記の通りである。</p> <p>① 定量目標として、1500団体で15000人の被災者支援を設定していた。2回の公募結果、14団体の選定となったが、事業期間中（2021年8月）の北部九州災害への支援についても実施したため、想定での支援被災者数は、3000人を超える支援となっている。</p> <p>② コロナ禍において未知という点より、災害時の行政や社協の対応は慎重な状況であったため、コンソーシアムメンバーやアドバイザーの意見を元に、独自のガイドラインを作成し、行政や社協との意見交換を繰り返してきた。そのやりとりがあったため、2021年8月豪雨の際、特に被害が大きい佐賀県においてガイドラインを適用した県外団体の受け入れをスムーズに実施でき、今後新しい感染症が発生した際でも、県外受け入れが可能な指針が一つできたものと考えている</p> <p>③ 事業開始当初より、九州の中心である福岡の経済団体全てに様々なルートを通じて、企業への提案ノウハウがある企業と連携しながら、災害支援・防災の提案を繰り返し実施をした。その結果経産省九州産業局の枠組み内で、企業と災害を考える会を主催することができ、現在延べ40社を超える企業が参加いただいている。また、その会を通じてた企業のつながりにより、新しい企業の災害・防災の集まりも2022年1月より開始することになり、今後の支援連携が強化される形となった。</p> <p>今後は、①、②については一定の成果がでたことから、仕上げる時期となっており、③については、枠組みがメインとなっているため、現在は、一部の人物金支援の受付のみとなっている点を、今後も継続した仕組みにするためIT等を活用した仕組みを構築する</p>

## III. 活動実績

### 資金支援

アウトプット（今回の事業実施で達成される状態）	進捗状況
①コロナ禍における被災者支援の推進	
②企業等のボランティア参加の仕組み	
③ボランティア・物資支援等のための仕組み支援	

実行団体名	進捗状況	概要
熊本県南部豪雨ひまわり亭 災害支援ネットワーク	ほぼ計画通り	キッチンカー製作者との打合せに時間がかかり、日程の遅れはあるが、当初申請していた事業内容で計画通り進捗し9月末には完成納品される見込みとなった。コロナ感染拡大によるまん延防止等重点処置のため、予定していた食の炊き出しは、できなかったが、仮設住宅に向いて被災者との復興交流活動は行ってきた。解除になる10月からは、人吉のボランティア協議会や他の支援グループと共に、基本は月2回(第2・第4日曜日)復興交流会を開催決定。自助・公助・共助を基本とした地元でのボランティアのネットワークを拡大したい。尚、10月のみは10月3日第一日曜日に開催。
特定非営利活動法人 MAKE HAPPY	ほぼ計画通り	当初、補助を予定していた支援者や団体が、当団体で資金等の補助ができる段階の時点で、資金や人員確保の面で活動を維持できなくなっており、他の団体と連携しての支援体制が予定していた団体数、支援者数より少なくなっています。 ですが、当団体の活動に参加してくださっている支援者さんに対し、交通費などの補助だけでなく、技術面のスキルアップを図るワークショップの開催などを行い、支援者に対しての支援活動の継続だけでなく、支援者が、自分の町は自分で守っていけるような取り組みを行いました。  予定していた支援者さんとは連携を取りながらの活動ではなくなりましたが、これまでにつながってきた各種団体と連携を取りながら令和3年8月豪雨災害で被害にあった佐賀県大町町を中心とした被災家屋の復旧支援活動を行っています。現在、2人体制で人吉と佐賀での支援を行っている状況ですが、10月からは人員を増員し、さらに地域に寄り添った活動を継続していく予定です。
特定非営利活動法人熊本マ ンガミュージアムプロジェ クト	ほぼ計画通り	熊本県がまん延防止等重点措置に指定された為、人吉市がマンガ図書館オープンを9月から11月に延長した件以外は、想定以上に進行している。記事が新聞に載ってから、熊本県観光交流政策課が進めるKumaラボの人吉・球磨観光拠点の一つとしてマンガ図書館を取り上げる他、熊本県・熊本大学・熊本日日新聞社・くまもとDMCと「くまもとマンガ協議会」を開き今後の活動範囲を広げる波及効果を得た。また、障がいを持つ方へ就労機会を提供するという目的も果たしており、現在4名勤務、今後は特に就労希望が多かった女性の方が働きやすい女性専用作業所を拡張する予定である。
特定非営利活動法人五ヶ瀬 自然学校	ほぼ計画通り	ZOOM会議は月1回程度の開催および動画の編集、YOUTUBEへのアップなど順調に進んでいる。一般の方にどう見せると効果的なのかを検討中。毎回2時間程度の会議動画と事前打ち合わせの時の動画を、テーマ性を重視して編集し、ホームページにまとめたと思っている。球磨村の「さんがうら田舎の体験交流館」については、都市と農村の交流を取り戻すために、フットパスコースを2コース作成中。コース設定は終了し、モニターツアーを実施中。八代市坂本町の「リポーン」は復旧および復興の拠点づくりを行い、既に事業費は使い切った。一般向けのボランティア企画を模索中。
一般社団法人 BRIDGE KUMAMOTO	ほぼ計画通り	冊子作成については予定通り進んでおり、当時現地で活動していた団体や個人にオンライン取材をメインに対応している。 球磨川でのアクティビティ+ボランティアツアーについては、コロナや台風、大雨により予定よりも遅れているが、10月に一部開催予定。 また、状況イベント開催の時期が夏がメインとなるため、当初のイベント企画を冊子完成時のお披露目イベントを加えることで、作成した冊子やwebサイト、これまでに撮影してきた写真展示会などを行うことで県外の方にも改めて災害を忘れない、ということを伝えたい。
NPO法人KP5000	ほぼ計画通り	県内の全就労継続支援事業所への新型コロナ感染症の影響調査及び、水害被災地の事業所訪問の他、専門家の方をお招きし事業所の運営勉強会を実施。水害被災地の事業所訪問の結果、水害による影響は現在解消されていること、今抱えている課題は災害以前から抱えている経営課題であること、就労継続支援事業所の役割は障害者の就職を目指すことよりも障害者の居場所となることの方が重要という考えが強い事業所が多いことが分かった。

<p>特定非営利活動法人YNF</p>	<p>計画通り</p>	<p>緊急事態宣言の発令の影響により、熊本県人吉市など県境を越える必要がある活動については停滞している。福岡県朝倉市や大牟田市などにおいても緊急事態宣言中の個別訪問が行いにくい状況があったが、他団体との連携なども活用し、ヒアリング100世帯は既に達成することができた。</p> <p>また、令和3年8月豪雨の発災に伴い、福岡県久留米市では4年連続5回目の浸水被害を受けた。久留米市内で最も被害が多かったと言われる鳥飼校区においては、筑後川コミュニティ財団との連携もあり、鳥飼校区まちづくり協議会や鳥飼校区民生委員児童委員協議会、鳥飼校区社会福祉協議会など地縁組織と実効性のある連携体制を構築し、緊急支援対応にあたることができた。</p> <p>下半期については、PCR検査も有効活用しながら人吉市での活動も推進していくとともに、福岡県久留米市や大牟田市では自治体との連携強化を図り、被災世帯の生活再建を進めていきたい。</p>
<p>一般社団法人あゆみ</p>	<p>ほぼ計画通り</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○あゆみがある重心施設を、防災時の荷物などの搬入受け入れ拠点となるような整備を行う。</li> <li>○自家発電システム（走行充電・太陽光発電⇒リチウム蓄電池）の備わったキッチンカーについてのそれぞれの業者との打ち合わせを文書及び、電話などでの打ち合わせを10回程度開催。内金を入れたので、キッチンカー納品と同時に終日配電ができる仕組みができる。</li> <li>○被災地で、多様な形で、炊き出しのできるキッチンカーを11月半ばで出来上がり、内部や外装などの造作打ち合わせ中。</li> <li>○1月にシンポジウム等の開催 各種専門家を交え災害時に備えた講演会の実施、啓発活動や企業等との意見交換を開催する。</li> <li>○社会的弱者といわれる方たちへの理解を促すため、地域での炊き出しと共に勉強会の開催をおこなう。</li> <li>○通信設備をキッチンカーが来るのに合わせて行う。動画を作成し、配信を行う。</li> </ul>
<p>特定非営利活動法人 地域ひとネット</p>	<p>計画通り</p>	<p>ほぼ計画通りに進捗している。ホテル調査は「NPO法人自立支援センターおおいた」がコロナ禍の中、勢力的に活動頂き順調に推移している。サイト・システム開発は計画通り推移。「結ぶ手」は個別訪問が前提の為、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けている。事前承諾を受け訪問等の対策をとり実施しているが若干目標達成に苦戦している。今後も影響は避けられないことを前提とし委託部分も含めリモートツール等を活用し推進する。</p>
<p>海野建設株式会社</p>	<p>計画通り</p>	<p>中間での進捗状況は、ほぼ順調。1点だけ、プロサッカーチームのとの防災訓練が、コロナによる県独自の緊急事態宣言によって、順延となり、10月23日となった。日向市もマン防の指定地区となった。他の防災訓練や災害家具ワークショップに影響が出ると予想している。幸い宮崎県下では、大きな災害は発災していない。スクエアパネル工法をより簡単に施工できる技術の特許出願に向けて書類を作成中。また、弱点だったデザイン性も向上した開発プログラムを実行中。各種印刷物も中途ではあるが、最終印刷に向けて作業中。</p>
<p>一般社団法人フミダス</p>	<p>ほぼ計画通り</p>	<p>全体として日程の遅れはあるものの、順次活動を進めている。第二期オンライン副業復興事業も受け入れ団体・企業は確定し、11月のプロジェクトスタートに向け10月からオンライン副業人材募集を開始する。課題としてプロジェクト設計に想定より時間を要しており、遅れがでていますが、コミュニケーション頻度を上げ、受け入れ団体・企業の復興課題をより明確にすることにより解決していく予定。</p>

NPO法人リエラ	計画通り	<p>&lt;実施予定事業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・概ね計画通りに事業を実施することができた。</li> </ul> <p>&lt;追加事業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フードパントリー企画への参加 日田市社会福祉協議会が主催する、ひとり親世帯への食料及び生活用品の支給（フードパントリー）の企画に参加した。企画協力を含め、コロナに関するアンケートを実施し、コロナ禍の困り事及び課題について把握した。</li> <li>・令和3年8月豪雨災害への対応 令和3年8月13日の豪雨水害により、天瀬町内で浸水被害が発生。土砂出しのニーズに対してボランティア募集を行い、延べ100名のボランティアに協力いただき対応した。 令和3年8月豪雨で被災した、佐賀県武雄市で、（一社）おもやいをカウンターパートとして、被災者の困りごとを把握しつつ、必要な支援活動を実施している。</li> </ul>
特定非営利活動法人 日本レスキュー協会	計画通り	<p>全体として、日程の遅れはあるが、想定活動を順次進めている。懸念点としては世界的なウッドショックの影響により建物の完成時期に多少の遅れが発生してしまい、現在の完成予定は今年度の12月～1月となっている点。2月に訓練を実施予定の為、グランドオープンを待たずして開催する予定。</p> <p>ネットワークの構築に関しては、令和3年豪雨災害での支援活動を通して、実働しながら多くの行政やNPO等と連携することができ、事業期間内でこの想定はしていなかったものの結果的には当初想定していたネットワークの構築よりも強固な関係性が生み出されている。このネットワークの拡張や充実性は今後も更なる発展が十分に期待できる。また、佐賀県内の災害支援ネットワークの活動と連携し地域に根付くことによって、被災地の実態把握が進み、喫緊の課題の共有やフェーズに合わせた支援の採配に努めている。併せて地域住民の認知拡大も進んでいると感じる。</p>
一般社団法人アースプロジェクト福岡	計画通り	<p>2度目の挑戦で採択を頂き、7月から正式に活動を開始。しかしコロナ禍ということもあると同時に、事務局より、実際に学生を派遣する為にはノウハウの構築や事前の勉強、または現地視察など、活動がままならないこの時期を使って準備をするようにご指導頂いた。その為、HPのリニューアルと公式LINEアカウントの開設を行い、災害支援の内容をふんだんに詰め込んだわかりやすい内容でリリースし、学生が情報を得やすく、参加しやすいエントリー環境を整えることからスタートした。</p> <p>8月には、人吉へ被災地の視察を兼ね、市役所の災害担当者や、社会福祉協議会のボランティア担当の方々と面談。現況を訪ねながら今度の活動方針のイメージを膨らませた。さらに同月、今年の豪雨で被災し、浸水被害を水につかった久留米の家屋での家財運搬作業を行い実際に活動の体験を行った。さらに、今後の学生収集時に使用する資料として、活動のしおりや感染対策ガイドまたは活動毎の詳細オリエン資料を整備し、学生を派遣する準備が整いつつある。また、他の実行団体との連携施策は中間報告会の出席がきっかけとなり、事務局からの後押しもあって複数団体との交流を持つことが出来つつある。派遣依頼のお話も頂きつつある。11月以降は、当社スタッフの体験活動を行いながら学生派遣の第一号を目指して精進していきたい。</p>

#### 非資金的支援（資金分配団体の伴走支援活動）

活動	進捗状況	概要
事業進捗の助言等	計画通り	団体数が14と多く、エリアも九州全域という点より、北部・南部にわたる毎月の定例面談（毎月のオンライン面談と3ヶ月に一回の相対面談）と、個別相談を併用することで、団体の事業進捗への課題解決に迅速に対応することができた
団体同士の情報交換	計画通り	当初はリアル開催を想定していたが、感染拡大をうけて、オンラインとなったが、コンソーシアム団体と、実行団体、アドバイザーが参加した会議を開催した。その後も情報交換をみにつにするため、メーリングリストや、メッセージンググループをつくり、相互の情報共有を促した。また個別エリアでも、連携可能性がある団体同士をつなげて相互での連携強化もした
災害時の支援	計画通り	事業期間中発生した災害（令和3年8月豪雨）時には、緊急助成の調整や、助成後の活動支援、人物金の調達のための支援など、実行団体の活動に後押しとなる内容を実施した

#### IV. 事業実施後（1年以降）に目標とする状態への所感（中間時点）

自由記述
<p>事業申請時に目標としていた内容は、「緊急性をともなう地区での被災者支援ができていない状態。助成団体を中心にした新しい九州内で災害対応のネットワークができていない状態。コロナ禍における新しい生活様式にあわせた災害ガイドラインや、接触をさせた登録、ルール作りができていない状態。各県で災害や防災復興への支援活動が現状よりも進み、生活再建につながっている状態」以上を設定した</p> <p>実行団体14が、復旧・復興や、ペット・障害者など多様な団体であったため、当初の緊急性を伴う支援は十分にできたと感じている。また、毎月の面談や定期的な情報交換を通じて、団体同志のつながりもできあがりつつあり、事業終了後も九州におけるスタンダードなネットワークとなる準備ができていない。同時に、今後更なる感染拡大や新たな感染症がきた場合でも、行政のルールを遵守しながらの県外団体の受け入れ支援ができるガイドラインを整備できたことは大きく、全国団体等にも事例として報告している。災害リソースの第三勢力である企業とも、福岡における中核企業とつながりができ、災害支援・防災についての意見交換も進み、企業においても、九州の災害支援・防災のスタンダードな集まりができる点も大きい。</p> <p>総じて、本事業については、定性・定量共に達成できる状況であるが、災害の規模が当初想定をこえてきている状況を踏まえて、事業終了後は、今回構築したモデルを元にした。進化モデルを形成し、災害の拡大への対応を備えていく</p>

#### V. インプット

		2020年度	2021年度	合計	執行金額	執行率
事業費	実行団体への助成に充当される費用	¥0	¥160,000,000	¥160,000,000	¥159,985,378	99.99%
	管理的経費	¥4,686,000	¥23,430,000	¥28,116,000	¥21,000,000	75%
プログラム・オフィサー関連経費		¥500,000	¥2,500,000	¥3,000,000	¥400,000	13%
合計		¥5,186,000	¥185,930,000	¥191,116,000	¥181,385,378	95%
補足説明		コロナ禍の長期化により、当初想定よりも九州域内の行き来が少なく、PO経費の執行率が低い状況であるため、資金計画の変更申請などを申請し、管理的経費で不足する可能性がある項目の内、PO経費としての計上可能な品目を変更し、全体としての執行率を高める予定				

#### VI. 事業上の課題

事業実施上顕在化したリスク/阻害要因とその対応

VII. その他

自由記述
------

VIII. 広報実績

広報内容	有無	内容
メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	有	2021年1月西日本新聞社掲載「 <a href="https://saga-mirai.jp/2021/01/29/the-yomiuri-shimbun-the-government-of-kyushu-5-has-1-6-billion-yen-in-dormant-corners-in-the-wake-of-a-shortage-of-funds-for-the-damage/">https://saga-mirai.jp/2021/01/29/the-yomiuri-shimbun-the-government-of-kyushu-5-has-1-6-billion-yen-in-dormant-corners-in-the-wake-of-a-shortage-of-funds-for-the-damage/</a> 」
広報制作物等	有	コンソーシアムの別サイトを作成し、事業の進捗などの掲載「 <a href="https://q-saitai.jp/">https://q-saitai.jp/</a> 」
報告書等	無	

IX. ガバナンス・コンプライアンス実績

ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。	はい	
2. 内部通報制度は整備されていますか。	はい	
3. 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
4. 関連する規程の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
5. コンプライアンス委員会は定期的を開催されていますか。	はい	